



クラブ 会報

CLUB BULLETIN (WEEKLY)

鶴岡ロータリークラブ

TSURUOKA ROTARY CLUB

D-253

創立 S 34.6.9

承認 S 34.6.27

例会場 鶴岡市馬場町 物産館3階ホール
例会日 毎週火曜日 12:30~13:30
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内
電話 0235 247711

会長 嶺岸光吉
幹事 佐藤 衛
会報委員長 川村 徳繁
小西海正
西佐藤 治一

No., 1085 1980. 12. 9 (火) (曇) No., 23

ヒシター紹介

今野義介君 製材一温海R.C
野口弥君 内装 松田善三郎君 製麵
本間文一君 左官 阿宗健一郎君 配管工事 鶴岡西R.C
笹本森雄君 ホテル

会長報告

嶺岸光吉君

会長報告としましては特別ございません。今日は会員の風間さんから「雑感」ということでお話をお聞きすることになっておりますのでよろしくお願ひ致します。

幹事報告

佐藤 衛君

1. 会報到着
東京、酒田東、寒河江R.C

TAKE TIME TO SERVE

時間を捧げよう 奉仕のために

2. 例会変更のお知らせ

- A、鶴岡西R.C 12月19日の例会はクリスマス家族会のため
12月18日、鶴岡産業会館 午後6時点鐘
- B、遊佐R.C 12月23日の例会はクリスマス例会のため 午後6時点鐘
- C、酒田R.C 12月24日の例会 酒田クラブで 午後4時点鐘
1月7日、新年顔合わせ 大和寿司 午後6時点鐘
1月10日、インターアクト酒田、酒田東R.C合同例会のため
天真学園 午後12時30分点鐘
- D、酒田東R.C 12月25日の例会クリスマス家族会のため
酒田産業会館 午後5時点鐘
1月8日の例会は、I.C、酒田R.C、酒田東R.C合同例会のため
天真学園 午後12時30分点鐘
3. 当クラブ次週16日の例会は親睦委員会からご案内の通り例会変更でお休みになりますので間違いのないようお願いいたします。

委員会報告

◎親睦活動委員会

高橋正太郎君

- (1) 今度の例会は家族会で、20日でございます。既以往復はがきでご案内しておりますが、期限に遅れないように出欠のご返事をお願いします。
- (2) 当日のお手伝いは親睦委員会の皆様とS.A.Aの方をお願いします。1時間前の4時までご集合下さい。

丹下誠四郎君

会員の池田弘君が入会直後に病気になられ、入院加療中でしたが、幸い軽く完治して元気になられました。次の例会から出席されるそうです。

◆ 会員スピーチ

「雑感」

風間慶三君

昭和47年からロータリーにお世話になって8年になります。スピーチがないのでよかったと思っていたところ、上野君からやられまして、会議所のことを言えばよいのか、何を話せばよいか考えたんですけど、先輩の早坂さんのあとを継いでやっているわけですが、皆さんに非常にお世話になって、会員も9月で2千名を超えさせていただきました。厚く御礼申し上げます。婦人会もできましたし、ある程度裾野は広がったんじゃないかと思えます。

ところで、このロータリー、非常に良いことをやっておられて「荘内への提言」というものをやっております。今日は結城先生が書いているようですけども、結城先生を中心に渡会校長さんの非常なご厚意なんですけれども、一つのビジョンを持つんじゃないかということで、発展構想委員会というものをやっています。いろんな方からお話をお伺いしているんですけども、ロータリーの荘内への提言の先生方と大分ダブっていますが、それは結構なことと評価

すべきことではないかと思っています。一つお願いしたいことは、庄内地区の経営化というものをどう、これを直すかということで、結局庄内空港ということになるわけです。それで私個人としても大分動いたつもりです。知事にも言ったし、東北経済連合会の担当、若林、服部さんなんかにもお願いしました。知事も、副知事も500万円来年度つけるということなんですが、やはり民間のあらゆる方からコンセンサスを得なければならないということで、先月の末頃でしたか、酒田の会議所の幹部と私ども会いまして、庄内空港一つにしぼって話し合いをしました。結局、民間で同盟を作るべきじゃないかということなんです。皆さんご案内でしようけれど、市長、町長、議長が一緒になって庄内開発協議会というのがございます。これが表向きいろいろそういうことを言っているわけですが、結論と各論との差がいろいろあります。しかし、これが主になるべきだと、協議会の会長は斎藤市長ですが、そういうことで昨日集まって民間団体としてあらゆる層を入れて行こうということです。これをやるには物心両面で、みんなが自分の持てる力を出し合わなければならないと思います。今からやったところで10年かかります。だがやらなかったら、あと出来ないんですから、みなさんも長谷川先生からお話し聞いておられますのでおわかりと思いますが、私どもその立場では、やらなければならないかと思っていますので、応分のご協力を特にお願ひ致します。

さて、スピーチに移りますがいろいろレポートをみまして日本の産業がすばらしいということが皆さんおわかりと思います。一つは自動車の生産台数だが、今年でアメリカを抜いて世界1位になったということです。もう一つは、これからの産業の基である大規模の周積回路、ICですが、これがアメリカと一緒にになり、もう追い抜いてきた。恐らく80年は日本はこれをもって席捲すると思います。それでこの日本の動きについては真珠湾攻撃と同じように、半導体の世界の会議では非常に恐れられているという事実があります。我々には直接ピンとこないのですけれども、恐らくこの10年の間には、この250キロビットまで日本では出来る。シリコンのパン……小指の先ぐらいのもので英和辞典がみなメモリーされますから……そういうふうな時代になってきている。だから我々の産業の行くべき道も、自ずとそういった関係のものが、このへんでは良いのではないかと漠然とですが思うわけです。

今日お話ししてみたいのは自動車の生産が世界一になった……これについて或るレポートを見ましたので、かいつまんでみたいと思います。

自動車産業、これは今世紀最大の産業であります。恐らくこれはアメリカが一番強いわけです。アメリカのこの産業といいますと、いろんな部品がありまして、それを全部組立てる産業であります。アメリカは経済の20%がこれに関連しております。ですから最近の問題は問題なのであります。ところで日本も苦勞に苦勞を重ねて血の出るような思いをして、だんだんこれに迫ってまいりまして現在では20兆円産業です。491万人おりますので、大体労働者10人に1人はこの関係だといわれます。欧州においても自動車産業は、英・仏・独・伊で一番大きな巨大産業であるというのは、そのとおりなんです。フォードがマスプロ制であって、大量生産、大量販売をやっているわけで、これを日本が真似して一生懸命やってきたというのが現在に至っているわけです。ところで日本は日本人の勤勉さとか頭の良さとか、その仕組みといえればよいか、会社を思う気持だとか、そういったもの全部、向こうと違うわけで、どんどん

技術も向上して日本の品質は抜群でして、故障はない、ガソリンの効率も非常によい、価格も安い、アフターサービスにおいては至れりつくせりだと、受渡しなんかも正確だと、こうなっていれば、どうしても日本車が愛され、信頼されるのは当然なわけです。そこで最近では、国としてはいろいろありましょけれども、欲しいという人が多いわけです。従って輸出されて行くというのが実体なわけです。ただ、そのことがアメリカ並びに欧州の自動車産業に対して非常に痛手を与えているということがあるんです。向こうの連中も日本の自動車が入ってくるのを手をこまねいているわけじゃないんです。だけれども総合力においてとても日本に及ばないわけなんです。それで何とかして勝とうということになるんですが、すぐ勝てないものですから、日本に対して輸出をやめてくれ、いわゆる撃ち方やめ、をしてくれというふうなことなんです。少なくとも75年～79年の線まで下ってくれと、こうなんです。それでこの間アメリカ自動車労組が提訴したことがありましたが、結局このことはITC、アメリカの国際貿易委員会が先月10日に、日本の車が輸出になっていることはアメリカに対して重大な損害を与えているとは認められないと言って、3対2で否決されています。ところがITCの決定だけで黙っているわけではないので、レーガン選挙中は輸入制限について大分書いておたし、議会でもそうだし、全部が日本を目的にしているということなんです。

自動車産業という大きな、組立て、2万を越すような部品の組立てなんです。資材関連部門をみんな計算して組立てる作業です。言ってみれば大きな海軍の連合艦隊みたいなものです。こういう状態ですから戦いは勝つか負けるかしかない。必死なわけです。これが今の状態で、これから56年に入るんですけれども、それならば日本の自動車産業会はどうだったかという、戦時中もあるはあったんですけれども、戦後と同時に生産中止だったわけです。そして24年に乗用車を作ってよいといわれ、それから約31年、それだけ日本の技術は欧米にずっと劣っているものですから、欧米の技術を仕入れまして、一生懸命やったわけです。あの頃でできましたのは、30年代はトヨタのコロナ、ニッサンのブルーバード、40年代にきて大衆車としてトヨタのカローラ、ニッサンのサニー、このへんにきてぐっと伸びてきた。ちなみに日本側の生産をちょっとみてみますと、24年～25年頃は2万台とか3万台なんです。31年にきて45万台、40年にきて187万台、45年にきて528万台、50年で694万台、去年は963万台、今年9月までで821万台です。ところで昨年のアメリカはどうだったかという1.148万台で、約200万台弱だったけれども日本より多かった。ところが油の問題もいろいろありますので、向こうは大型車だものですから、それが売行き不振で大型車の減産を余儀なくせざるを得なかった。それで今年の目標は1,040万台というんですが、見方によっては850万台行くかどうか。もう日本は9月までで800万台を越しています。10月からの3ヶ月で恐らく1,000万台を越すか、その辺まで行くのではないかといわれます。大型・小型の差はあると思います。しかし、日本の自動車生産は世界一になったと言えます。それでもアメリカは自動車産業は基幹産業だという自信があったわけで、多少の不況なんかは余り感じなかったんですが、世界で一番大きいアメリカで一番代表的なゼネラルモーターズが第3・4半期で赤字が5億6千7百万ドル、これが10月27日発表になった。これにはアメリカの連中もガクンときたわけです。頭をひっぱたかれたような感じです。そしてGMも1月から9月までにすると9億ド

ル位の赤字で、とつてもやっ行って行けないということなんです。アメリカの4大社というのは、クライスラー、フォード、アメリカモーターズとGMとみんな悪いようです。こうなってきましたと自分の悪いことは棚に上げて日本のことだけ批難するということになります。

なぜアメリカはそうなったか、それは或る程度あぐらをかいたこともありましょうし、この間本山君がアメリカ見てからお話もあったように、とに角、働くことから会社の中の仕組み、その他違うと思うんです。石油事情が非常に変わりました。アメリカでは78年には1ガロン76セント、今では1ドル30セントと倍になっています。それが大型車では沢山のガソリンを食って、ばらまいて走っている。それが金持ちのうちにはよかったが、こうまでインフレになり不況になり、失業者が多くなると、どうしても効率の良い小型車に行くことは当然なわけです。それで、大型の車は減産していますが、ストックが多いんです。そして小型車に相当切り変わっています。各社ともやっているようです。しかし、急にやってもとても日本の優秀なものに追いつけない。従って、少し待ってくれ、自分等がそこまで行けるまで待ってくれと言っているようです。従って、GMも大型車は減ってきているようで、大量解雇、一時解雇が今年6月で、4社で合わせて23万7千人あったそうです。結局こうなると何でもかんでも日本に対する批難をしてくる。労組もそうだし、考えてみればアメリカで20%を占める産業なんで、この自動車産業が危機に陥ることはアメリカ経済の危機でもあるわけです。日本は低賃金である、時間外労働をやっている、車はダンピングをやっている、などあらゆることを言って批難します。アメリカの運輸省で自動車をぶつけ合って日本とかドイツの車は駄目だ、アメリカの車が一番安全性が高いとした。しかし、大型と小型と同じようなことやって、そんなふうに言うのはおかしいことですが、そこまでしなければならぬということなんです。だけど一般の人は自動車会社に勤めている人すら自分の会社の車に乗らないで日本車に乗る。アメリカの国民としても性能の良い日本車を選ぶのは当たり前で、日本の車であれば向こうの調べで1ガロンで35キロ位行くんだそうです。GMで27キロ位、フォードに至っては17キロしか行かないということなんです。効率が非常に良いんですね。アフターサービスも良いし、だから一概にそう言われても困るんですね。

日本としては小型車がアメリカに大分入っているわけですが、今申し上げたとおりガソリンが少なくすむわけで、従って日本車を使うことはアメリカ経済にとってマイナスではなく、プラスだわけです。日本車はアメリカで一年間で大体306ガロン、ところが米国車は755ガロンだそうです。この差は一年間で56億ガロンの節約になるので、これはアメリカの年間ガソリン消費量の5%だそうです。ということになれば日本の車はアメリカで決して悪いことをしていないと言えるわけです。そのほかに日本としてアメリカのメーカーのブランドで送っているんです。昨年は15万台の小型トラック、23万台の乗用車で折り合って向こうのブランドで出して経営に協力しているわけです。それから日本で部品の購入とか、現地の投資などで78年で42億2千万ドル出している。これも向こうのGNPに対して0.5位の効果は挙げているわけです。それだけにアメリカの方もどうも治らない。確かに日本車は品質も良く、安くて、故障もない、アフターサービスも良い、アメリカ国民に愛されているし、信頼もされている、喜んで買っているようだ。だけれども、それをやることによって大

きな会社がつぶれて行くということ、経営が危機に陥るということは、6人に1人の労働者が関連しているわけですから、あんたの方の車は良いからどうぞ遠慮なくいらっしゃいと言うほどアメリカ人はお人良しではないわけです。この辺が一つの問題です。その上今迄日本はアメリカとかECに多く行ったんですけれども最近では中近東とかアフリカとか中南米とかアジアとか、そういうところに日本の車が非常にやっているということなんです。こういうところは、そういう摩擦がないものですから日本の車が強いものですから、今まで欧米で出城としてその辺にもっていたところが、次々に日本の車にやられてしまっている。もういよいよ本拠アメリカ、EC、そこで守らなければならない。

昨年欧度の州の輸入は過去最高であった。ところがその大部分が日本車であった。恐らく83年まで行くと、ドッコイ、ドッコイになって輸入の方が多くなるのではないかということです。ですから英・仏・独・伊にしても日本を仇にしているという状態だそうです。そうなりますと自動車産業というのは大きな関連がありまして、日本の場合も491万人といわれていますが、大きな関連の上に、言ってみれば連合艦隊ですね。ですからアメリカにしても、ECの各国にしても、何としても日本をやっつけなければならないというのが今の急務のようです。しかし、大分差があるわけですから、まず自動車産業というのは、基礎資材部門として、鉄、アルミ、鉛、亜鉛、プラスチック、関連部品は、ゴム、塗料、ソーダ、油脂、コークス、石油、電力、ガス、繊維、木材、石綿、陶磁器、ガラス、皮革製品、化学製品、エレクトロニクス、スプリング、ベアリング、ポンプ等なんでもです。それに部品の販売会社だとか、整備工場だとか、これに金融機関がついている。銀行、保険など巨大産業です。

しかし、日本の内部でも競争がはげしい。ちよっとうっかりしていると相手の方から集中攻撃を受けるというようなことになる。それで日本は立派だと思いますが、80年になって自動車は世界一の生産台になった。しかし、経済で戦争し合うのは困るわけで、これからのもって行きようが大事だと思います。皆さんご在知のようにトヨタはフォードと提携しました。日本だけでなく広い分野での提携が行なわれることになってきています。何しろこの激突は来年、さ来年と非常に長く続くものだと思います。しかし、日本人達は非常に英知にたけておるし、皆なよく働きますので、必ずや世界に負けるなんていうことは考えられません。

ちよっと感じたことを申し上げて終わります。

出席報告

本出席の席	会員数	70名	欠席者	秋野君、池田(弘)君、早坂(徳)君、中村(真)君、金沢君、齋藤(栄)君、齋藤(得)君、齋藤(利)君、菅原君、高橋(耕)君
	出席数	67名		
	出席率	85.71%		
前回出席の席	前回出席率	81.43%	メ ア ッ ク ブ	新穂君一温海R.C 飯白君一立川R.C 坂垣(広)君、黒谷君、佐藤(昇)君、菅原君、 玉城君、丹下君、本山君一鶴岡西R.C
	修正出席数	66名		
	確定出席率	94.29%		